

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 早期療育や適切な支援へつなげるための発達検査や知能検査
- 資金分配団体 : 中国5県休眠預金等活用コンソーシアム
- 実行団体 : 特定非営利活動法人はぐ

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
知能検査・発達検査が一定の精度で実施できる施設の整備ができた	①整備できた施設の機能・状態 ②外部からの雑音などで検査の精度が低いと関係者から指摘される回数	①検査環境の中で落ち着いて検査ができる状態が完成。 ②0回（指摘なし）	初年度終了時点	①・② 工事完了し、一定の精度で検査が可能な環境を整備できている。	2
整備できた施設で知能検査・発達検査を随時実施	検査の実施件数	32件／年 (月単位で2～3件程度)	各事業年度終了時点	6件／2022年4～9月	3
検査を受ける当事者だけでなく、その保護者に対して相談対応している	検査前後の養育者への相談者数	延べ60名程度／年 (月単位で5件程度)	同上	10件／4～9月	3

教育関係者など子どもの支援に関わる人たちの間で障がいや検査に関する理解が進んでいる	関係者からの勧めで受験した人数	16件/年	同上	6件/4~9月	3
検査の実施が可能な施設が新設されたことを幅広い人々に向けて広報している	整備途中や整備後の動きを、HPによる継続的な情報発信	発信記事数1件/年	同上	1件/4~9月	3
同上	PR用チラシを医療・教育・福祉機関や市役所等に配布・告知	配布枚数2000枚、配布先150件（学校件数+関係機関）	同上	100枚程度、配布先20件/4~9月	3
医療・教育・福祉等の関連機関に対して施設新設と支援活動が周知され、連携関係がある	関連機関からの問い合わせ回数、または各機関と情報交換や意見交換する機会を設けた回数	1回/月程度	同上	4回/4~9月	4

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
発達検査等を行う施設付近はこどもが集う空間であるため、事業実施にあたりコロナ感染を出さない事を優先に活動している。

## ③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価全体とりまとめ	大野 みどり	NPO 法人はぐ 理事長
内部	実施状況の適切性・活動の改善や知見の共有	大野 奈々	NPO 法人はぐ 理事
内部	実施状況の適切性	原田 梨沙	臨床心理士
内部	活動の改善や知見の共有	橋本 英吏子	臨床心理士
外部	評価全般に対する助言協力	伊藤 彰	NPO 法人やまぐち県民ネット21 (資金分配団体 PO)

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
小学校入学前の子ども	小学校入学後の支援学級、支援学校への措置替え数	平均3件/月	各事業年度終了時点	21年度（21年10月～22年3月）は「累計2件」。 今期（22年4月～9月）は「累計1件」。 状況把握のためアンケート等を実施したところ、検査後の状況を率直に情報開示しづらいという回答者の事情もあり、把握件数が少数にとどまった。今後は状況把握のためのアプローチ手法または指標設定を検討し、実態の把握を進めたい。

高校進学が学力的に難しい生徒	検査後の進路選択についてのアンケートにおいて「より適切な進路選択ができた」と回答された件数	平均3件/月	各事業年度終了時点	21年度(21年10月~22年3月)は「累計2件」。 今期(22年4月~9月)は「累計1件」。 同上。
検査実施可能な施設が地域で増えたことを知った地域住民や市民	HPの閲覧数	1,000セッション/年	各事業年度終了時点	21年度(21年10月~22年3月)は「266セッション」 今期(22年4月~9月)は「852セッション」。 別途、従来とは異なる層(たとえば地元の学習塾)を経た問い合わせもあり、HPやチラシにより周知度が増していることがうかがえる。
同上	検査に関することで市民から団体に問い合わせが寄せられた件数	18件/年	各事業年度終了時点	21年度(21年10月~22年3月)は「累計0件」。 今期(22年4月~9月)は「累計1件」。 上述のとおりHP自体の閲覧数は純増し、不特定多数への周知度は一定程度上がったと思われるが、検査実施に関する情報の広がりがまだ不十分の様子(検査事業に関する情報がより伝わるよう発信方法を検討したい)。
医療・教育・福祉等の関連機関	関連機関の連携により事態が改善した相談案件の件数	平均3件/年	各事業年度終了時点	21年度(21年10月~22年3月)は「累計3件」。 今期(22年4月~9月)は「累計6件」。学校、教育機関、などからの紹介に応じて、検査を実践。新たな関係先(学習塾)の構築や、関係性の拡充ができた。
同上	関係者が集う情報交換・ケーススタディなどで共有された知識・情報の件数	平均20件/年	各事業年度終了時点	21年度(21年10月~22年3月)は「累計2件」。 今期(22年4月~9月)は「累計1件」。 今期はスクールカウンセラーが集う勉強会へ実行団体が参加して、不登校案件等に関する課題を解決するための意見・情報交換を行い、情報や知見を共有した。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
実施なし	-	



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>想定以上に終息しない新型コロナウイルスの影響を受け、事業活動に制約を受ける状態が続いている。そのような中でも徐々に学校関連からの認知は広がりつつあり、今までになかった問い合わせ、紹介も生まれ始めている。</p> <p>また、発達検査等の受検が検討されやすい時期は秋口(1学期や夏休みが終わった「2学期」以降)からということもあり、この認知の輪が広がり、かつ感染の影響を受けなければ今よりも件数増加が見込め、目標数値に近づけると考えている。</p> <p>ただし、今後のコロナの状況が収束に至ると断定できない分、左記の評価は「不透明」と判定した。</p> <p>なお、よりアウトカム達成の判定精度を高めるために、検査を受けた児童・生徒等における改善状況の把握手法や判定指標の再検討を図る。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容や各種取り組みは、当初の計画に沿った内容・スケジュールどおりに実施されているか	遅れてはいるが進んでいる	コロナの影響を大きく受けて、当初想定での進みは出来ていないが、できる限り安全性に配慮した体制で実施を継続している。 加えて、検査を受けた子どもや若者の状況把握について、プライバシー等がからむこともあり当初の把握手法（保護者等へのアンケートやヒアリング）では回答率が予想より低くなった事態が生じた。今後、把握手法について工夫や検討を行いたい。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業をめぐって他の関連機関との間でどのような情報が共有されているか。また、連携による新たな取り組みが生まれたか	徐々に進んでいる	保護者の了解を得て、学校との情報共有、連携が生まれている。今後さらに教員への結果の見方レクチャー等によって、より認知、連携が進められるよう取り組みを進める予定
組織基盤強化・環境整備	第三者からも信頼されるような組織基盤の強化につながる取り組みが行われたか	資金分配団体から提示された「組織診断シート」により組織運営に関する強化点や改善点等を把握	左記シートへの活用を通じて、今後の事業展開や組織運営上の課題点について資金分配団体の PO と共有した（例：中長期的な財務計画など）。現在、資金分配団体でその課題解決に向けた対応策や支援策などを検討中。また、実行団体内で組織診断シートを参照にして運営マニュアルを整備、以前に比べてもより組織として拡充している。

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

地元の小中学校やこども園または教育関係の行政部署といった多様な関係先へのチラシ配布等や、教育関係者やスクールカウンセラーなどが集う会への参加を経て徐々に認知は広がっていき、関係機関からの紹介や連携も生まれている。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

まだ所定の指標に沿った成果に至っていないが、関係先との情報交換などから当初は意識していなかった「会社や大学等」にも事業ニーズがあることが分かってきている。今後はそこへのアプローチも考えている。



## ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている  と自己評価する	徐々に広がっている認知をより広めていくことにより、相談、検査件数も増えていくと想定している。 また民間施設、結果の分かりやすさ等が一定評価を得ている点を訴求ポイントとしていきたい。

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

HPの情報拡充  
チラシの配布先の拡大  
認知の向上

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



検査実施の様子



PR用チラシ



検査用ルーム出入口